

平成28年（2016）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、69万7,100人
対前年（H27）同月比 +8万5,700人、+14.0%
～5月の過去最高を更新、外国客は単月初の20万人台を記録～

入域状況

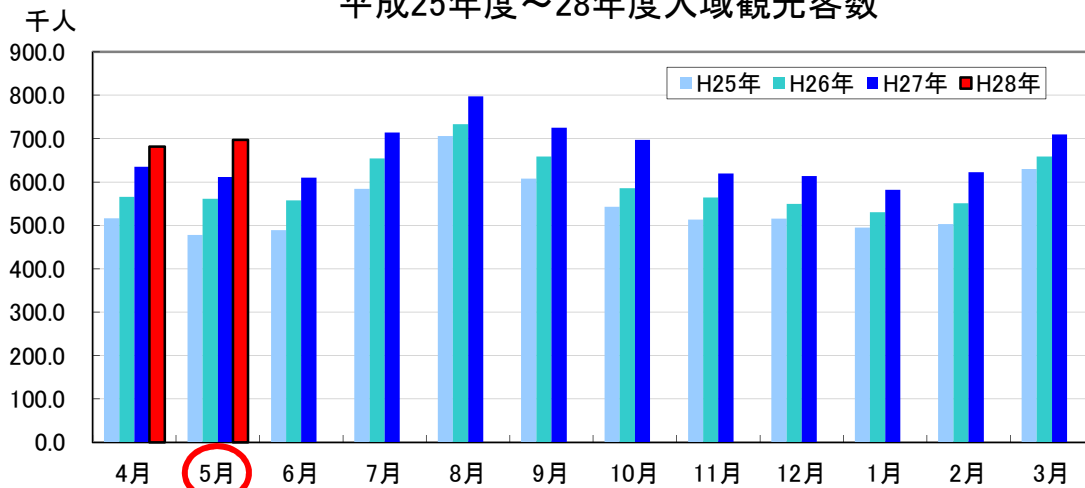
入域観光客数（平成27年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H28年度	H27年度	増減数	増減率	構成比
国内客	490,600 人	477,700 人	+ 12,900人	+ 2.7%	70.4%
外国客	206,500 人	133,700 人	+ 72,800人	+ 54.5%	29.6%
合計	697,100 人	611,400 人	+ 85,700人	+ 14.0%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成27年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H28年度	H27年度	増減数	増減率	構成比
国内客	490,600 人	477,700 人	+ 12,900人	+ 2.7%	74.2%
外国客	170,400 人	116,600 人	+ 53,800人	+ 46.1%	25.8%
合計	661,000 人	594,300 人	+ 66,700人	+ 11.2%	100.0%

平成25年度～28年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、4月中旬の熊本地震に伴い、一部において影響がみられたものの、羽田及び関西－宮古路線を中心とした離島方面が好調に推移したことや、前年同月に比べて航空路線の拡充があったこと等から前年並みとなった。

6月以降は、離島方面を中心に予約状況が良好なことや、各旅行会社による商品販売の取り組み強化の動きがあること、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、韓国及び中国における航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が大幅に増加したこと等により、空路・海路ともに順調に増加し、単月として初の20万人台となり、過去最高を記録した。

6月以降は、香港－石垣や、7月の台北－那覇及び中国・南京－那覇路線の相次ぐ新規就航を含む航空路線の拡充があることや、クルーズ船の寄港回数的大幅な増加が予定されていること等から、空路・海路ともに順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H28年度	H27年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	218,200人	211,700人	+ 6,500人	+ 3.1%	44.5%
関西方面	119,200人	115,900人	+ 3,300人	+ 2.8%	24.3%
福岡方面	58,200人	57,100人	+ 1,100人	+ 1.9%	11.9%
名古屋	40,600人	37,800人	+ 2,800人	+ 7.4%	8.3%
その他	54,400人	55,200人	△ 800人	△ 1.4%	11.1%
合計	490,600人	477,700人	+ 12,900人	+ 2.7%	100.0%

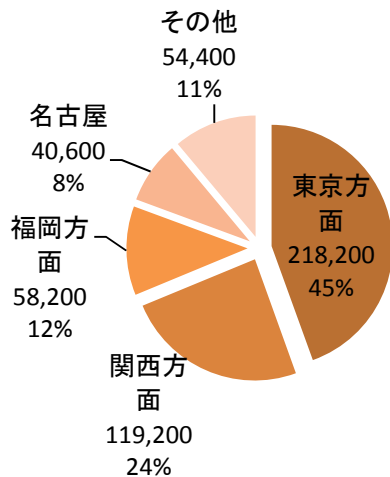
※国内海路客8,600人を含む(鹿児島3,000人、神戸2,000人、関西100人、その他3,500人)

外国客 国籍別入域状況

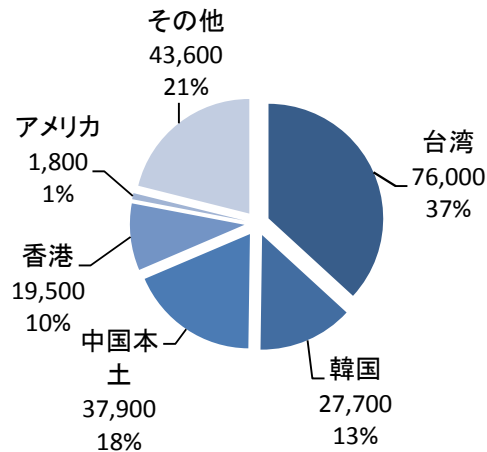
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H28年度	H28年度	H27年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	76,000人	76,000人	55,300人	+ 20,700人	+37.4%	36.8%
韓国	27,700人	27,700人	21,800人	+ 5,900人	+27.1%	13.4%
中国本土	37,900人	37,900人	17,300人	+ 20,600人	+119.1%	18.4%
香港	19,500人	19,500人	16,600人	+ 2,900人	+17.5%	9.4%
アメリカ	1,800人	1,800人	1,200人	+ 600人	+50.0%	0.9%
その他	43,600人	7,500人	21,500人	+ 22,100人	+102.8%	21.1%
合計	206,500人	170,400人	133,700人	+ 72,800人	+54.5%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	39,300人	39,300人	+27.2%	35.2%	36,700人	36,700人	+50.4%	38.6%
韓国	27,600人	27,600人	+38.0%	24.8%	100人	100人	△94.4%	0.1%
中国本土	21,500人	21,500人	+24.3%	19.3%	16,400人	16,400人	皆増	17.3%
香港	17,300人	17,300人	+4.2%	15.5%	2,200人	2,200人	皆増	2.3%
アメリカ	1,300人	1,300人	+44.4%	1.2%	500人	500人	+66.7%	0.5%
その他	4,500人	4,500人	+15.4%	4.0%	39,100人	3,000人	+122.2%	41.2%
合計	111,500人	111,500人	+24.4%	100.0%	95,000人	58,900人	+115.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、羽田－宮古路線を中心に好調だったことや、LCCを中心に成田からの入込が増加したこと等から、前年を上回った。

6月は、他方面との競合が懸念されるものの、例年梅雨明けとなる後半を中心に各旅行会社による商品販売の予約状況が良好なことや、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、堅調に推移する見込み。

大阪

5月は、伊丹－那覇路線の提供座席数増や、離島方面を中心に入込が好調だったこと等から、前年を上回った。

6月以降は、各航空会社で引き続き、離島方面を中心に予約状況が良好なことや、各旅行会社による商品販売の取り組み強化の動きがあること等から、好調に推移する見込み。

福岡

5月は、4月中旬以来の熊本地震の影響により、一部において団体旅行等のキャンセルや旅行自粛の動きがあったこと等から、前年を下回った。

6月は、引き続き、地震の影響が懸念されるものの、後半から福岡－石垣路線の季節運行が再開することに加えて、個人旅行を中心に旅行商品の予約状況が良好なこと等から、堅調に推移する見込み。

名古屋

5月は、各旅行会社の販売状況が好調を維持したことや、スカイマークによる増便等、航空路線の拡充があったことから、前年を上回った。

6月は、他方面との競合が懸念されるものの、個人・団体旅行ともに予約状況が良好なことや、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、好調に推移する見込み。

台湾

5月は、各航空会社の航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

6月は、端午節の連休による旅行需要や、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充、クルーズ船の寄港予定があることに加え、7月からV Airの台北－那覇路線の新規就航があること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

韓国

5月は、4月中旬以来の熊本地震の影響による一部キャンセル等があったものの、大韓航空のソウル－那覇路線の新規就航やジンエアーの釜山－那覇路線が運行再開したこと等により、空路客を中心に前年を上回った。

6月は、顕忠日の連休による旅行需要や、引き続き、前年同月に比べて航空路線の拡充があること等から、空路客を中心に順調に増加する見込み。

中国本土・北京

5月は、北京首都航空による瀋陽－那覇路線の定期チャーター就航や、天津－那覇路線が好調だったこと等から、空路客を中心に増加し、前年を上回った。

6月は、端午節の連休による旅行需要や、航空路線の拡充の動きがあること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

5月は、各旅行会社の販売状況が好調だったことや、上海、廈門及び広州発クルーズ船の寄港回数が増加したこと等により、空路・海路客ともに増加し、前年を上回った。

6月は、各旅行会社による旅行商品の予約状況が好調なことや、引き続き、上海、廈門及び広州発クルーズ船の寄港予定があることに加え、7月から上海吉祥航空の南京－那覇路線の新規就航があること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

5月は、労働節の連休による旅行需要の高まりに加え、香港発クルーズ船の寄港があったこと等により、海路客を中心に増加し、前年を上回った。

6月は、香港エクスプレスの香港－石垣路線の新規就航があることや、引き続き、香港発クルーズ船の寄港予定があること等から、空路・海路客ともに好調に推移する見込み。